

秩父往還の起点

上石公民館 松崎子典

十七号国道、石原北歩道橋下に、三基の道しるべがある。

- 一、ちちぶ道しまふへ十一り
- 二、秩父観音巡礼道一はん四万部寺へたいらみち十一里
- 三、宝登山道、是より八里十五丁

この碑文が示すように、この地点が秩父観音霊場札所巡りの入り口であり、秩父往還（街道）起点である。

秩父札所巡礼は、坂東札所巡礼がそうであったように、東国人たちの西国巡礼に寄せる強い憧れと信仰によって、室町期に一般人の参詣が始まり、江戸期には、現在の旅行ブームにも似た最盛期を迎えたと考えられる。秩父街道入り口右手は「立場」と呼んだ所で、終戦まで、建物内部にその名残があった。かごかきがつえを立てて客待ちをしていたのであろう。秩父街道の高崎線を過ぎると、小字名で下宿から上宿となる。上石公民館西二反三畝は慶長年間徳川家に仕え七千石を所領した城和泉守の屋敷地であり、後に忍藩のお蔵場となった。



(熊谷市公協だより 第33号 平成12年より)